

**令和7年度第1回小牧市児童館運営委員会
議事要旨**

日 時	令和7年9月5日（金） 10：30～12：30
場 所	ラピオ4階 まなび創造館 多目的室
出 席 者	【委員】10名（※敬称略） 植松 浩二郎 中島 智子 熊澤 幸子 小島 恵子 長谷川 留美子 倉知 日出美 鈴木 久代 尾崎 唯 安達 有紀 丹羽 和子 【事務局】14名 こども未来部長 多世代交流プラザ所長（司会） 指導保育士 事業推進係長 事業推進係員2名 こまきこども未来館副館長 小牧南児童館長 小牧児童館長 西部児童館長 味岡児童館長 篠岡児童館長 大城児童館長 北里児童館長
会議内容	1 こども未来部長あいさつ 2 議事 （1）令和6年度児童館・子育て支援室実績報告について （2）令和7年度小牧市児童館指定管理者モニタリングについて 3 報告 ・こまきこども未来館講座運営会議の報告について ・こまきこども未来館来館者アンケート調査結果について 4 その他 ・こまキッズフェスタ2025 ・第2回児童館運営委員会
会議要旨	<u>○開会・開催延期について・委員紹介および会議の成立について</u> ・開催延期について こまきこども未来館を除く市内7館は指定管理によって運営されており、本委員会において運営状況の評価をお願いしている。 こまきこども未来館については別途「こまきこども未来館講座運営会議」にて企画運営等の審議・評価について行っているものの、これまで本委員会には報告してこなかったが、児童館に関する重要な事項であるため、本委員会でも報告する必要があるとし、当初の予定から開催を延期させていただいた。 ご理解とご協力を頂き、また、本日ご参加いただいたこと感謝する。 定足数6名を超える10名の参加であるため会議成立。（傍聴者は0名）
こども未来部長	<u>1.こども未来部長あいさつ</u> ・ご多忙の中、また、悪天候の中お集まりいただき感謝申し上げます。 ・本日の議題として、昨年度の実績報告とモニタリング結果について皆様から評価を頂くこととなる。 ・毎年高い評価を受けているが、ご指摘いただいた内容、また、他の児童館への助言などを参考としながら、現場での業務内容を適宜改善し、より一層多

	くの方に来館してもらえるよう努めていきたい。そのためにも、委員の皆様からは忌憚のないご意見をいただきたい。 <u>○委員長及び副委員長の選出</u> 規則に則り、委員長および副委員長を互選にて選出。 委員長：植松委員 副委員長：丹羽委員 <u>2.議事</u> <u>(1) 令和6年度児童館・子育て支援室実績報告について（資料1、資料2）</u>
事業推進 係	資料1－1。児童館全体の総利用者数が659,652人となり、前年度実績と比べると39,236人増加。特に小学生～高校生の利用が多く、小学生は19,938人増（＋14％）、中学生が3,865人増（＋11％）、高校生が3,964人増（＋19％）となっており、各館が取り組んでいる「こどもの居場所づくり」の結果、こども達にとって安心して過ごせる居場所となっていることが伺える。
未来館 副館長	資料1－2。子育て支援室では育児相談の件数は減少しているものの、自由来所の件数は増加している。市の保育料無償化等により保育園に預ける家庭が増えている中、自由来所が増えるということは、家庭で子育てしている人にとっても子育て支援室が気軽に遊びに来られる場所でありこどもが過ごしやすい場所となっていることが要因だと考える。 続いて資料2-1、こまきこども未来館について。 ・令和6年度目標は「また来たくなる未来館～未来リテラシーを育む～」。 ・市内外から多くの幼児親子や小中高生の来館があり、2階の交流ひろばでは中高生が利用しやすくなるよう中高生に意見を聞き「飲食可能エリア」の作成や交流ひろばそのもののスペースを拡張。また、テーブル等の配置換えを工夫し、小学生に加え中高生も利用しやすい環境づくりを行った結果、昨年度比120％を超える増加率となった。 ・8月1日～10日にこまき冒険スライム村を実施。実行委員を中心に活動し、何か問題があればこども達自身で解決策を考え、実行し、解決しながら運営した。大人目線でより良い解決法が見えたとしても口出しをせず、失敗を見守った。 ・未来館は市の児童厚生員と受付・講座運営の委託先である10人村の2団体で運営しているが、組織の枠に囚われないプロジェクトチームを複数結成し、コミュニケーションを取りながらよりよい運営に向け共に検討を重ねており、今後も継続していきたい。

小 牧 南 児 童 館	資料 2-2、小牧南児童館。 ・令和 6 年度の重点目標は「地域ぐるみの子育て」。 ・三世代交流会や運営協議会と互いに協力しながら活動を行った。また、こどもの居場所づくりのひとつにこども食堂実施者との連携があり、食後に児童館へ遊びに来るこども達も多く、今後も継続していきたい。 ・中高生の居場所づくり「放課後 Chillout」では新たに和室を追加し、漫画も設置するなど寝転がってくつろげる居場所を提供し、多くの中高生の居場所となっている。 ・児童館利用者で多胎児の保護者が多いことを受け、「双子ちゃんのママのおしゃべりサロン」を企画。そこから「パパと子ひろば」の開催につなげた。結果としてイベントをきっかけに初めて来館したパパもあり、慣れない父子を皆で見守る温かい場面もあった。 ・これからも利用者の声に耳を傾けながら皆の居場所となるよう、また、みんなの心に残る支援が継続していけるよう努めていく。
小 牧 児 童 館	資料 2-3、小牧児童館。 ・令和 6 年度の重点目標は「こどもが主役になれる児童館、遊びを通じて地域とつながる」 ・こどもの主体的な活動を目指し、こどもプランナー企画では企画から運営までをこども達自身に行ってもらった。職員はこども達を信じて裏方として見守り、意見を言えない子も自分自身の意見を伝えられるよう工夫しながら皆で造り上げた。 ・区の祭りの手伝いや小学校の放課後こども教室、三世代交流会、地域運営協議会での役員活動など地域に根差した様々な活動を実施し、こども食堂に関しても継続しており、多くのこども達の居場所となっている。 ・学校の宿題が出来ず学校に行かなくなった子がいたことを機に「みなくる寺子屋」を実施し、学習のサポートとして元校長先生などに活動に参加してもらっている。結果として自主的に勉強に気が向かなかった子も現在は自主的に勉強に取り組むようになった。 ・大勢の来館者の中には不登校や複雑な事情を抱える児童もあり、児童館を居場所として選んできてくれている。学校やスクールソーシャルワーカーと連携を取りながら接した結果、登校を再開した児童もいる。これからも、こども達と向き合い「また行こう」と思ってもらえる児童館であり続けたい。
西 部 児 童 館	資料 2-4、西部児童館 ・令和 6 年度の重点目標は「こどもが創るこどもの居場所」。 ・気軽に意見表明ができ、その意見で児童館が変わることを経験させることでこども達の声をもっと運営に反映させる土壌づくりに取り組んだ。

西部 児童館	・今までにない新しい事業も多く実施でき、小中学生の利用者数はコロナ前と同水準、中学生に関しては昨年と比較すると2倍ほどの利用が増えた。 ・SNSによる情報発信にも力を入れており、Instagramのフォロワー数も倍増し、新規利用者の獲得につながっている。そのほか口コミによる来館も多く、利用者満足度の向上に向け、今後も真摯に運営を行っていく。
味岡 児童館	資料 2-5、味岡児童館 ・令和6年度の重点目標は「みんなでつくろう！ぱるもあじおか〜児童館を楽しもう〜」。 ・「やってもらう」のではなく「やってみる」というこどもの挑戦をサポートしながら、こどもが主体的に関わって行うイベントを開催。職員体験などを経験し、こども達自身の積極性や意識向上など成長を実感できる場に。 ・児童館サポーターや地域の方々にご協力いただき、こどもが普段経験できないことを体験してもらう企画や、キッチンカーとの連携において孤食を防ぐとともに児童館をPR。 ・悩みを抱える子の背景に目を向け、児童館が安心して頼ることのできる居場所であられるよう向き合っていきたい。また、来館する親子の心身共に拠り所になれる雰囲気づくりに取り組んでいきたい。
篠岡 児童館	資料 2-6、篠岡児童館 ・令和6年度の重点目標は「児童館であそぼう・楽しもう」「地域と共に育ち合う児童館」。 ・小学生を対象とした新しい講座を開催し、結果として学校や学年、男女の枠を飛び越えた仲間意識が芽生え、講座のあとに一緒に遊ぶ姿がみられた。 ・外遊びが危険となるほどの猛暑日が続いた際、小学生から「遊戯室内でボール遊びがしたい」と要望があり、中学生など他の利用者とも話し合いをし、共に新ルールを設立。結果、幼児親子や中学生にとっても居心地の良い時間が生まれることにつながった。 ・利用者との対話を大切にすることでニーズの把握をし、利用者の主体性を引き出すことに繋がる。今後も多くのこども達や保護者にとって居場所となれるよう努めていく。
大城 児童館	資料 2-7、大城児童館 ・令和6年度の重点目標は「地域みんなで楽しさのシェアリング」。 ・児童館行事に地域の方々だけでなく、中学校のジュニア奉仕団や小中学生の有志によるブラザークリエイターなど、多くの方から協力を得られた。 ・一時預かりが開始して丸2年が経過。通い慣れている児童館において普段接している職員が対応するからこそ、親子ともに安心して預けに行くことがで

大 城 児 童 館	き、ママやパパから離れる第1歩として機能している。 ・預かりの多くはリフレッシュや仕事、ママの通院といった理由での利用が多く、ママたちの気持ちを切り替える応援が出来ていると思う。リピーターが多く、新規利用が少ないため今後も広く情報発信をしていきたい。
北 里 児 童 館	資料2-8、北里児童館 ・令和6年度の重点目標は「心のビタミンC 楽しい・うれしい・私らしい」。 ・来館者に「児童館でなにが出来たらうれしいか」と意見を募ったところ、職員だけでは解決できない意見もあり、そういったものはこども達でルールを作ってもらいながら実現させた。 ・ニーズに沿った企画の実施や運営方法の工夫によってより身近に児童館を感じてもらえる。また、付箋で気軽に意見を出すことができ、大人達が寄り添うスタイルが定着し、現在の基礎となっている。 ・支援室では多くのお楽しみ会を企画しており、利用者の傾向として長時間滞在し、支援員との会話を楽しむ親子も多いことから居心地の良い空間と感じていただけているのではないかな。 ・今後もこども達の気持ちがこもった児童館運営を目指し、さらに踏み込んだ活動ができるよう努めていく。 <質疑応答>
植 松 委 員 長	小牧、味岡、篠岡の「体力増進」の利用者数が昨年度比で倍増となった理由について。
事 務 局	小牧：児童館のこども会議の中で8人以上あつまればボール遊びができるようにした結果ボール遊びを目的に来館する児童が増えた。 味岡：毎週水曜日の16：30から小学生以上を対象に自分で考えて自由に遊びを展開できる活動を実施中。 篠岡：実績報告でもお伝えした「ボールタイム」が新しくルール化されたことや館庭での鬼ごっこや職員が一緒になって行うヒューマン鬼ごっこなどが人気。
中島委員	部活動が減少しているなかで、こういった体力増進などの取組はありがたい。 小牧児童館の「てんか大会」というのはどのようなものか。
事 務 局	小牧：ドッジボールの要素もあるようなボール遊びの一種。非常にこども達に人気があり、小学1年生から6年生まで、時には中学生までが参加し、終業

	式後のお楽しみ企画となっている。
安達委員	児童館は小さい子が行くところという印象があり、高校生の利用が多いことに驚いた。 特に味岡児童館や大城児童館の高校生利用が多いように思えるが何か理由や他の児童館との違いはあるのか。
事務局	味岡：学習室や音楽スタジオがあり、勉強やダンス、バンド活動での利用もできるのが特徴。また、17：30から19：00まで中高生が自由に遊ぶことのできる時間「アオハルナイト」を実施しているというのも要因のひとつ。 大城：味岡と同様に学習室・音楽スタジオがある。テスト前などは学習室が満席になるほどの利用があり、息抜き時は1階で遊ぶなど、うまく活用している。また、文化祭などの前だとスタジオ利用が増える傾向にある。
小島委員	味岡児童館の子育て支援室の自由来所数が倍増した要因は何か。
事務局	味岡：これまで他の児童館と集計方法が違っていたことが分かり、集計方法を他の児童館と同じように合わせた。
熊澤委員	どの児童館も魅力的な行事を企画しているが、他行事と比較して参加人数が非常に少ない行事もあり、定員を設けて行事を行っているのか。 もし定員制を設けて行っているものがあればご紹介いただきたい。
事務局	小牧南：「こども科学研究所」などは講師との打ち合わせの中で定員10名とし、そのうち4名の参加であった。 北里：どの児童館も定員を設けた行事はあるかと思う。部屋の定員、材料、職員の目が届く範囲、また講師からの要望等理由はそれぞれ。また、北里に関してはあえて利用が少ないと予想される日に企画し、来館者数の増加を計る狙いもあった。
熊澤委員	この表を見ただけでは分かりにくい。「定員制」など記載してあると分かりやすい。
尾崎委員	父親参加型の行事もあるが、行事以外の日に父親がこども連れて来館したりすることはあるのか。
事務局	北里：企画をきっかけに来館し、その後も利用する父親は多い。職員との交流

事務局	を楽しみにしている方や、母の買い物中に児童館で子どもと一緒に過ごす姿も見られる。 小牧南:令和6年度は館長が男性で同性の職員に話しかけやすい環境ということもあり、「パパと子ひろば」で父親同士の交流もみられた。
丹羽副委員長	児童館利用実績報告書の集団利用者数等のうち、クラブの参加人数について極端に少ない児童館もある。また、事務局説明から「父母クラブをなくしていく」旨の報告もあったが、地域組織活動でもあるため現代の課題解決に向けた取り組みなどをお聞きしたい。
事務局	会員の負担軽減を目的に総会や役員会を廃止し、運営については児童館職員がサポートに入っている。また、活動の活性化を目的に定員に空きがある場合に限り市外の会員受入れも可とするなど、活動全体のハードルを下げたものの、現状としては、本来の目的である「子育てに関する様々な問題について利用者同士で話し合い、親睦を深めながら解決していくこと」とは少し逸れてしまう結果となった。 ただ、児童館の活動の中には十分に「父母クラブ」に近い活動を実施しており、毎月行う館長会の場において、全児童館と「クラブ制」をとらずとも本来の目的を意識しつつ、各館の利用状況に応じた柔軟な活動が実施可能だという結論に至った。
丹羽副委員長	時代に合わせてやり方を変えていくのは大切なこと。それぞれの児童館に合わせた形で父母クラブの目的が果たせるような活動を実施していただきたい。また、モニタリングなどでしっかりと活動内容を確認していただきたい。
植松委員長	どの児童館もひとつひとつ工夫しながら児童館運営に取り組んでおり、結果として利用者の増加につながっている。また、最後に意見があったように「父母クラブ」については時代の流れに沿った形でよりよい方向に改善していただきたい。
事務局	<u>(2) 令和7年度小牧市児童館指定管理者モニタリングについて</u> ※事務局よりモニタリング実施の趣旨および、資料3「小牧市児童館指定管理者モニタリング評価 評価基準表」を用いて評価方法を説明。 評価項目(1)運營業務および(2)維持管理業務については、7館すべて「適当」評価であったため、(3)サービスの質を中心に説明。

事務局	・小牧南児童館（資料４－１） <u>所管課評価：A</u> 「活動目標」「自主事業」「地域との連携」を特に評価。
植松委員長	自主事業の特記事項に「利用者の声を取り入れた企画」と記載があるが、これについて特によかったというものがあれば。
小牧南児童館	報告にもあった「双子ちゃんママのおしゃべりサロン」の企画。多胎児ならではの悩みや、あるあるを話したいというのがきっかけ。 父母ともに参加し交流をしたり、普段は保育園を利用している親御さんも輪に入り、おしゃべりを交えながら情報交換につながった。 (その他質問なし)
植松委員長	総合評価について、所管課評価と同様に総合評価も A 評価でよろしいか。 (異議なし) ⇒ 【総合評価 A】
事務局	・小牧児童館（資料４－２） <u>所管課評価：A</u> 「活動目標」「研修の実施」「自主事業」「地域との連携」を特に評価。
植松委員長	誉高校との連携で「誉カンパニー」とあるが、誉カンパニーの概要について説明を。
小牧児童館	講師を招き、講師が生徒たちに講義を実施。講義を受け、生徒たちが架空の会社を立ち上げ、事業をどのように展開していくのかというのを文化祭の場で発表するもの。 小牧児童館長として高校に招かれ「遊び・ゲーム」をテーマに講義を行った。
植松委員長	誉高校としてはボランティア活動を含め、積極的に地域に出るという学校の方針もあるため、こういった活動を続けていただきたい。 (その他質問なし)
植松委員長	総合評価について、所管課評価と同様に総合評価も A 評価でよろしいか。 (異議なし) ⇒ 【総合評価 A】

事務局	・西部児童館（資料４－３） <u>所管課評価：A</u> 「活動目標」「自主事業」「地域との連携」「情報発信」を特に評価。
鈴木委員	１，６００人以上の方が夏祭りに参加しているが、どのように情報発信を行っているか。
西部児童館	コミュニティセンターと地域運営協議会と共催。チラシや館だよりへの掲載、小牧西中学の全生徒の手に渡るように全校配布などを行った。ほかにはSNSで早めの情報発信や毎月１日はゆう友せいぶのLINEから登録者向けに配信するなどした。 （その他質問なし）
植松委員長	総合評価について、所管課評価と同様に総合評価もA評価でよろしいか。 （異議なし）⇒【総合評価 A】
事務局	・味岡児童館（資料４－４） <u>所管課評価：A</u> 「活動目標」「自主事業」「地域との連携」「情報発信」を特に評価。
熊澤委員	接遇の項目について、どの児童館も「○」評価となっているがどうしたら「◎」評価となるのか。
植松委員長	評価の仕方が非常に難しいと思うが、どの児童館も親切で丁寧な対応をしている。
尾崎委員	情報発信の部分について。こどもがある程度大きくなると、親は自然と児童館から離れることが多く、情報があまり回ってこないこともある。 特記事項内に「学生達との関わりの中でInstagramの使い方を教わりながら…」とあるが、Instagramの他にもX（旧：Twitter）のような他媒体があればよいと感じた。
味岡児童館	職員の平均年齢的な部分もあるが、SNSの発信力に長けた職員が少なく、投稿内容の構成だとかを学生に教えてもらいながら発信している。 Instagramは主に告知用に使用しており、館の様子などはホームページでの発信と用途を分けているが、日常情報の発信なども含め今後のやり方について検討していきたい。

尾崎委員	新聞を定期購読している世帯が減り、SNSなどをよく見る利用者もいるがその逆の世帯もいる。幅広くやることでより多くの方に向けた情報発信ができるのではないのかと思う。 (その他質問なし)
植松 委員長	総合評価について、所管課評価と同様に総合評価もA評価でよろしいか。 (異議なし) ⇒ 【総合評価 A】
事務局	・篠岡児童館(資料4-5) <u>所管課評価:A</u> 「活動目標」「研修の実施」「地域との連携」を特に評価。
小島委員	おやじの会や地域を巻き込んでの活動など非常に活発でよいと思う。ただ、高齢の方にもアピールしてもらえると、イベント時などの来館者数がより増えるのではと思う。
植松 委員長	「研修の実施」について、◎評価されているが、研修の成果などを感じている部分があれば教えていただきたい。
篠岡 児童館	月に1度、子育て支援員の研修として、支援室利用者の中から今後の対応方法について気になる方をピックアップし、スーパーバイザー(元保育園長)による研修を行っている。 研修の結果として、全支援員がその親子への今後の関わり方や支援の方向性を共有できており、保護者支援へつながっていると考える。 (その他質問なし)
植松 委員長	総合評価について、所管課評価と同様に総合評価もA評価でよろしいか。 (異議なし) ⇒ 【総合評価 A】
事務局	・大城児童館(資料4-6) <u>所管課評価:A</u> 「活動目標」「自主事業」「地域との連携」を特に評価。
中島委員	自分たちの住む地域以外の児童館について、資料2などを参考にするしかないため、毎月同様の行事が多く、他館と比較するとバリエーションが少ないように感じてしまう。所管課評価にあったように多文化交流など地域の特性の合

大 城 児童館長	わせた活動もあると思うが記載されていない活動などもあるか。 定期的に開催している行事にも力をいれており、その月で特に力を入れたものを主に記載させていただいた。また、題名のない行事も多く、今後はより詳細に記載していきたいと思う。 (その他質問なし)
植 松 委 員 長	総合評価について、所管課評価と同様に総合評価も A 評価でよろしいか。 (異議なし) ⇒ 【総合評価 A】
事 務 局	・北里児童館（資料 4－7） 「活動目標」「自主事業」「地域との連携」「情報発信」を特に評価。
長 谷 川 委 員	地域協議会など地域と合同で開催するような行事について、他の児童館だとそのイベントに参加した人も集計しているが、北里では集計は行っていない。実態として児童館の活動をしているため、集計しても良いのではないか。
北 里 児 童 館	児童館のブースに遊びに来た人数については、来館しているわけではないため対象外としていた。
植 松 委 員 長	長谷川委員から意見もあったように、児童館として地域と「関わっている」ため、集計対象としても良いのではないか。 (その他質問なし)
植 松 委 員 長	総合評価について、所管課評価と同様に総合評価も A 評価でよろしいか。 (異議なし) ⇒ 【総合評価 A】
植 松 委 員 長	7 児童館の総合評価が確定した。モニタリングシート内「運営委員会に対する運営委員会コメント」について、私と事務局でまとめたものを記載してよろしいか。 (異議なし)

事 務 局	<u>3. 報告</u> ・ <u>こまきこども未来館講座運営会議の報告について</u> ・ <u>こまきこども未来館来館者アンケート調査結果について</u> こまきこども未来館では『未来リテラシーを育む』というコンセプトのもと、楽しみながらこども自身が学びを見つけられる施設を目指している。 学校や家庭では体験できない体験を提供できるよう講座開催業務を開館当初より NPO 法人 10 人村に委託し、令和 6 年度からは開催業務に加え、受付業務も含めた委託となっている。現在の委託期間は令和 8 年度まで。 こども、保護者、運営に関する内容について多様な観点から 5 段階で評価したものが令和 6 年度の講座等開催事業への評価シート（資料 5-1）。 昨年度の評価はおおむね A 評価であり、年間の取り組みを通じて高く認められている。こどもの意見を取り入れることに注力し、こどもの居場所づくりに努めていた点や異年齢の交流環境がつくられていた点から、「利用対象児童が日常的に気軽に利用できる環境づくり」「利用者同士の関係を豊にする交流環境づくり」は S 評価を受けた。 運営を続ける中で運営を共に行う個人サポーターが 201 人、企業や団体パートナーは 128 団体に増え地元企業とも連携した活動ができていることが評価されている。 令和 6 年度実績として、未来館サポーターによる交流・体験 CAMP を合計 333 回開催し、22,281 人の参加があった、また、CKD（株）、住友理工（株）、日本特殊陶業（株）、デンソーなどと合同開催したイベントも好評であり、地元企業の未来館への関わり方の多様化にも繋がる機会となった。 続いて、未来館来館者アンケート調査結果について（資料 5-2）。 昨年度、実際に未来館を利用した小学生から保護者までを対象としたアンケート結果。 「未来館は楽しいですか」の質問は小学生 255 人中 251 人の 99%が「はい」と回答。また、保護者への「未来館で良いと思った内容」の質問では「違う年齢の子を連れてきてもそれぞれと遊ぶところがあって良い。」「さまざまな体験をする機会が得られるため、定期的に来たい。」といった回答があり、市内外問わず幅広い年齢の方から高い評価を得られている。 初来館の方はシンボルツリーなどの目に留まりやすいコンテンツを利用することが多い一方、来館頻度が高くなるにつれ講座やワークショップへの参加が増えている。未来館でやってみたいことで回答の多かった「プログラミング」や「からだをつかうこと」など、利用者の声を聴きながら講座等を開催することでリピーターの確保につながっている。
-------	---

	中高生利用に関しても、「未来館のことを何で知りましたか？」という問いに対し、半数以上が「友人・知人」回答しており、実際に利用した方が、友人らに紹介したいと感じているものと考ええる。 資料にはないが、毎日来館する利用者も多く、「第三の居場所」として定着しつつあることが伺える。 <質疑応答>
安達委員	講座運営会議そのものと、資料 5-1 の「自己評価」、「講座運営会議評価」についてもう少し説明を。
事務局	本委員会のような形で、こまきこども未来館の講座運営について評議をする場。未来館全体の運営ではなく、講座開催等の業務を委託している NPO 法人 10 人村の業務部分について評価を行っている。 「自己評価」については委託先（NPO 法人 10 人村）が自分たちの提供している事業について自己評価をし、「講座運営会議評価」では、事務局からの説明を受けたうえで、会議としての評価をつける。 本委員会という、モニタリング評価で所管課評価を受けたのち、委員会で総合評価をつけるというような形。
安達委員	続けて、事務局説明で「日常的に気軽に利用できる」旨の説明があったが、いつでも気軽に利用できるのは、主に未来館近辺に住む児童だけではないのかとも思う。ここが S 評価であるのはなぜか。
事務局	未来館に来館するまでの交通手段についてではなく、来館した児童が誰でも参加しやすい講座を実施しているかどうか、また講座の内容はどうかについて評価している。 家が遠く来館しにくいという部分については、市の巡回バス（こまくる）において未来館のパスポートを提示すれば無料で使えるといったように市が対応している。
丹羽副委員長	事務局説明にあったように、開館から現在まで、NPO 法人 10 人村に委託しており、講座運営会議内での評価も高く、利用者の評判も良く、個人的にも素晴らしい運営をしていると思う。 事務局から、委託期間が来年度で終了すると説明があったが、終了後はどのように次の委託先が決定するのか。

事務局	仮の話とはなるが、今回と同様に委託ということであれば児童館の指定管理者選定のように「公募」によって選ばれる。
丹羽副委員長	「公募」ということは、場合によっては委託先が変わる可能性もある。 私自身、何度もこまきこども未来館に足を運んでいるが、企業との関わり方や企画力、イベントについて非常にいい運営ができているように思える。 もし委託先が変わるとなると、これまでの運営の質や活動が維持・継続できない恐れがあるのではないかと、 個人的にはこのままの委託先での継続、または、これまで築き上げてきた運営等を継続して発展させていける方法がある良いと思うが、そういったことはできないものか。
事務局	市としても未来館は現在、非常にいい運営が出来ていると思っているが、講座開催委託の場合、地方自治法の随意契約の要件に該当しないため、NPO 法人 10 人村を委託者として随意契約することが出来ないのが現状。 令和 3 年にオープンしたこまきこども未来館は、ラピオビルの 2 階から 4 階に位置し、面積も非常に広く、エリアごとで対象年齢が違うため管理運営に多くの職員が必要となる。 そのため、開館当初は市の直営部分と、受付業務、講座開催業務の 2 つの委託部分で役割を分けて運営していたが、職員間の情報共有や連携が難しく利用者に不便をかけることもあった。 令和 6 年度からは別々であった講座開催業務委託と受付業務委託を一本化し、公募のうえ NPO 法人 10 人村に委託。流動的な人員配置を可能とすることで業務効率化による経費削減を図り、現在に至る。 しかしながら、日によって混雑状況が変化することが多く、委託と直営とで流動的な配置ができずに結果として多く職員を配置することになり人件費が高くなってしまったといった問題点もある。 5 年目となった今年度、混雑状況の予測や効率的な配置について概ね確立されてきたので委託期間が終了する令和 8 年度末をもって指定管理者制度に移行し、効率的な運営をすることで更なる来館者の満足度向上とコスト削減につなげていくことも検討している。 仮に指定管理者制度を導入する場合であっても、原則公募による選定となるため、一民間団体である NPO 法人 10 人村を任意指定することは難しいと考えている。例外的に任意指定が認められるケースがあり、本市の事例では、こまき市民文化財団などが任意指定を受託している。また、他市では「こども財団」のような組織を設立し、こども施策全般と児童館の運営などを行っている事例もある。

丹 羽 副委員長	「こども財団」という組織がある市や、小牧市でも「こまき市民文化財団」など任意指定で指定管理している事例もあることが確認できた。 現在、小牧市には「こども財団」はなく、簡単な話ではないとは思いますが、オープン以来、これまでのこまきこども未来館が築いてきたものを継続させていくために、ぜひ、他市の事例を参考に小牧市でも検討していただければと思う。
鈴木委員	私も、こまきこども未来館の運営受託者が数年で次々と変わってしまうことで、これまでの取り組みや関係企業との関わりなどが継続できなくなることはあってはいけないと思う。 それとは別に、少し違う視点から意見を。3年の委託期間が終了した後、契約の継続が確約されないという不安定な状況について、こまきこども未来館に勤務するスタッフたちにとっては非常に不安だと思う。長期間にわたり継続して働くことが可能となれば、今の熱意のある若いスタッフなども今以上にやることを見出しチャレンジできるのではないかな。ひいてはこども達に還元されると思う。 委託契約については法律などの定めもあるかと思うが、今の高評価を継続させ、将来にわたって発展させていくためのいい方法が見つかるといいと思う。
植 松 委 員 長	その他意見等あるか。 (その他意見無し)
植 松 委 員 長	本委員会でも、こまきこども未来館の運営について、市民に好評であり、かつ講座運営会議においても評価の高い現在の委託事業者が変わってしまうことで、今までの活動が断たれてしまうことやスタッフの不安定さを懸念する声もあった。 事務局からは、これまで築き上げてきた運営体制を維持、継続していくために指定管理の任意指定という例も紹介があった。 本委員会として、市に対し、これまで築き上げてきた活動が断たれてしまうことのないよう検討していただくよう意見をまとめたが、ご意見等ないか。 (異議なし)
植 松 委 員 長	それでは本委員会として、こまきこども未来館が今まで築き上げてきた活動が断たれてしまうことがないよう、指定管理者制度への移行や任意指定も含めどのような運営方法が適当なのか検討していただくよう要望する。

事 務 局	<u>4.その他</u> ・こまキッズフェスタ 2025 令和 7 年 10 月 25 日（土）開催。 会場はこまきこども未来館。市内児童館が 3 チームに分かれブース出展。 ・第 2 回児童館運営委員会 令和 8 年 2 月 12 日（木）開催予定。
植 松 委 員 長	本会への議事内容はすべて終了。 進行を事務局へ。
事 務 局	これをもって委員会を終了とする。